「あの時のこと…、そして今…」

千字万感

三重テレビ放送株式会社
代表取締役社長　長江　正

中部経済連合会にはとても懐かしい思い出があります。私は東海テレビ放送の出身で、三十代のころ中経連の担当記者をしていました。多くの方々に取材でお世話になりました。その頃、海外経済ミッションとしてオーストラリア、ニュージーランドへの視察があり（奇跡的に会社からOKが出て）同行取材をすることが出来ました。同行メディアは新聞も含めて私一人だけ（ネタは独占ですね）。自分でＴＶカメラを撮影する記者カメ取材でした。

その日程の途中でアクシデントがありました。ニュージーランド北島のロトルアで地熱発電を視察した後、首都ウェリントンへ向かう予定でした。しかし急な天候悪化に見舞われ、飛行機は欠航。翌日は首都で首相との会見です。急遽観光バスをチャーターして、暴風雨の中を一晩かけてウェリントンへ。一行の誰もが（無事にたどり着けるだろうかと）不安感Maxで、バスの中は重苦しいムードでした。当時の中経連会長は松永亀三郎さんでした。今でもあの時の情景を鮮明に覚えています。海岸道路に出て、フロントガラスに絶えず高波がかかる最前列に松永会長がどかりと座り、すぐ後ろの席だった私と（あえて）のんびり世間話を始めました。一晩中です。思えばリーダーが泰然自若することで、皆の不安感を払しょくすることに心を砕かれていたのだと思います。真っ暗な海岸道路を高波にあおられながら進むのは、本当に怖かったことを覚えています。明け方近くになって、ウェリントンの街の灯りが見えた時の松永会長のほっとした笑顔も覚えています。もちろん首相との会見は大成功でした。危機の際にリーダーとして必要なものを、この時に松永会長から学ばせて頂いたと（勝手に）思っています。

今や新型コロナウイルスにより、世界全体が変わってしまいました。ポストコロナと言えどもウィズコロナです。生活様式だけでなくビジネスモデルも変化を余儀なくされています。誰も経験したことがない事態が続きます。しかし私たちはたとえ高波に翻弄されても前へ進んでいかなければなりません。私は今、あの時のことを思い出しています。そして、私たちはこの歴史的転換点を必ず乗り越えることが出来ると信じています。